

2020年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	帝京大学大学院 公衆衛生学研究科	助成金額	30万円
氏名	寺田周平		
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）			
新型コロナウイルス感染症流行下で、産後早期の女性のうけるソーシャルサポートと産後うつ病に関する横断的調査			
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）			
<p>【研究の背景と目的】 多くの妊産婦に重大な健康影響を及ぼす産後うつ病は、ソーシャルサポートの不足がリスク因子である。現在、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行による様々な妊産婦支援事業の中止による影響で、多くの妊産婦が孤独や不安を抱えている可能性があるが、その実態は不明である。よって、産後の母親を対象とした質問紙法による横断研究を行い、(1)COVID-19流行下の産婦のソーシャルサポートの実態を明らかにすること、(2)外出自粛など特殊な状況での産後うつ病の頻度を明らかにすること、そして(3)産後うつ病の1次予防にむけた効果的な方法を探索することを目標とした。</p> <p>【研究の概要】 静岡県西部の周産期センターである聖隷浜松病院に協力いただき、2020年8月～11月に513人の褥婦を対象に研究を実施した。産後うつ病の有病率は7.6%でこれはパンデミック以前の本邦の有病率と同等～低い結果だった。ソーシャルサポートは産後うつと有意に関連しており、またCOVID-19の自覚的影響の大きさによってその関連の程度は変わらなかった。サポート提供者別に評価すると、家族のサポートは産後うつと有意な関連はなく、友人や大切な人からのサポートは有意に関連していた。</p> <p>【考察】 COVID-19流行下で産後うつが増加していなかった理由として、当該施設が緊急事態宣言非発出地域で自身の感染への不安が低い可能性があったこと、また母親学級や立ち合い出産の中止などはあったが妊産婦が専門職や周囲の人々からのオンラインサポートを活用していることが推測された。本研究を通じて、産後うつ病の発症に家族以外の周囲の人々からのサポートの重要性が明らかとなり、COVID-19流行下におけるソーシャルサポート（家族のみならず友人や周囲の人を含めたサポート体制）のスクリーニング評価の重要性が示唆された。本研究結果を研究施設のスタッフで共有するとともに、論文として公表し、妊産婦の産後うつ病の予防に資するエビデンスを提供した。</p> <p>【今後の活動】 家族からのサポートのなかでも特に妊婦と親との関係性に着目し、現在さらに研究を進めている。また、パートナーの育児参加の実態を把握するために、父親の育児動機に関する研究を進めていく計画である。</p>			
助成金の使用金額及び使途			
オンラインアンケート（SurveyMonkey アカウント料） 35000円 アンケート回答用タブレット、ケース、保護フィルム 24379円 文房具（ラミネート、タッチペン、ファイル） 800円 解析用PC 179916円 論文英文校正費用 22442円			
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）			
Terada S, Kinjo K, Fukuda Y. The relationship between postpartum depression and social support during the COVID-19 pandemic: A cross-sectional study. J Obstet Gynaecol Res. 2021 Jul 8. doi: 10.1111/jog.14929. Epub ahead of print. PMID: 34237800.			